

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	運動障害性構音障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	通年 月曜1限	教室名	4校舎301
担当教員	小川れい	実務経験と その関連資格	総合病院にて運動障害性構音障害に対する言語聴覚療法業務に従事			
《授業科目における学習内容》						
運動障害性構音障害について、前半は障害のタイプ分類と各タイプごとの発話特徴を理解する。後半は各タイプの発話特徴をふまえた上で検査結果の解釈・統合を行い、訓練立案・実施できることを目標とする。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
資料配布 参考図書:標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版 (医学書院)						
《授業外における学習方法》						
復習は大前提ですが、自宅で復習できなかった時は、授業開始前に数分でも良いので前回分の内容を振り返ってください。						
《履修に当たっての留意点》						
学んだことを臨床に繋げていけるよう、授業では聞いた内容をできるだけ具体的にイメージするよう心掛け、学生同士でも実技ならびに統合・解釈についての復習をしっかり行ってください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害の定義と“上位運動ニューロンと下位運動ニューロン”を説明できる。	資料配布 パワーポイント		
	各コマにおける授業予定		運動障害性構音障害について知り、上位運動ニューロンと下位運動ニューロンを理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	“運動障害性構音障害と他の言語障害との違い”、“運動麻痺のタイプ”について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す	
	各コマにおける授業予定		“運動障害性構音障害と他の言語障害との違い”、“運動麻痺のタイプ”について学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	“反射の種類”を理解し、“中枢性麻痺と末梢性麻痺の違い”を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す	
	各コマにおける授業予定		“反射の種類”と、“中枢性麻痺と末梢性麻痺の違い”について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1回～第3回の内容を説明できる。 錐体路と錐体外路障害の違いを説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す	
	各コマにおける授業予定		第1回～第3回の復習テストを行う。 錐体外路障害について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	小脳失調とその症状について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す	
	各コマにおける授業予定		小脳失調について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音に關与する神経を覚え、一側性神経支配と兩側性神経支配について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	構音に關与する神経を復習し、一側性神経支配と兩側性神経支配について学ぶ。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	“一側性神経支配と兩側性神経支配”、“球麻痺と仮性球麻痺”の症状の違いについて説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	“一側性神経支配と兩側性神経支配”の復習と、“球麻痺と仮性球麻痺”の症状の違いについて学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害のタイプ別発話特徴を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害のタイプ分類と、タイプ別発話特徴を学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害のタイプ別発話特徴をまとめなおし、第1～8回に学んだ内容の定着をはかる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	第1～8回の内容を振り返る。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害を生じる疾患について理解し説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害を生じる原因疾患とその特徴を学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声発語器官の解剖・生理を理解し説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	発声発語器官の解剖、仕組みについて学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声発語器官の評価項目について説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	発声発語器官の評価項目を学ぶ。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	標準dysarthria検査法を知り、各項目の評価内容を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	標準dysarthria検査の検査実習を行う。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査結果からの評価ができる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	標準dysarthria検査の結果をもとに評価の練習を行う。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	AMSD以外の検査法を知り評価内容を説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害(第一次案)を実習する。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動障害性構音障害の評価の解釈・統合を理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の評価法を学ぶ。		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音障害の訓練方法を理解し説明できる。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	構音障害の訓練方法を学ぶ。		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	どのような訓練法があるか、AAC等も含めて理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の訓練法を学ぶ。		
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ポジショニングなどを練習し、理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の訓練を学ぶー① 実際に訓練の前段階となるポジショニングなどを学ぶ。		
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	口腔訓練等を練習し、理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	運動障害性構音障害の訓練を学ぶー② 実際に口腔訓練等行う。		
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例を見て訓練立案の方法を理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	症例をみて訓練立案を練習する。ー①		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例を見て訓練立案の方法を理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	症例をみて訓練立案を練習する。ー②		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例を見て訓練立案の方法を理解する。	資料配布 パワーポイント	配布資料と参考図書を見直す
		各コマにおける授業予定	症例をみて訓練立案を練習する。ー③		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第31回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第32回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第33回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第34回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第35回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			